

ビーチバレーボール・ジャパン・カレッジ2020  
第32回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会「開催ガイドライン」

【JVAバレーボール競技に関わる大会等再開時のガイドライン・JBVビーチバレーボール競技に関わる大会等再開時のガイドラインに対応】

【ガイドライン】

【対応策】

1. バレーボール大会等の再開に当たっての基準

大会等の再開に当たっては、以下のとおりご対応くださいますようお願いいたします。なお、当該大会等が開催される都道府県の方針に従うことが大前提であり、開催や実施の判断に迷われた際は、開催地や施設が所在する都道府県のスポーツ主管課や衛生部局等へご相談ください。

※学連から大会開催地に大会内容やガイドランを提出。

(1) ビーチバレーボールに関わる活動実施の基本的対応方針について

社会経済活動の再開の目安を基準に、「新しい生活様式」定着までの移行期間およびその後の期間を経て、下記のとおり段階的に緩和していくことを原則とします。詳細は、5月25日に内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長より発信された「移行期間における都道府県の対応について」をご参照ください。

新しい生活様式定着までの移行期間後

□ 8月1日以降を目的

- ・都道府県をまたぐ移動：制限を解除
- ・展示会やコンサートの開催制限：収容率の50%以下の入場に限る
- ・生活様式定着までの移行期間・全国規模の移動を伴うプロスポーツ等：収容率
- ・ビーチバレーボール競技の大会等：開催地の方針に基づき開催可

※基本的に大会開催予定は9月5、6日に設定しているため、新しい生活様式定着期間以降になるので何事もなければ問題なく開催

①JBV主催事業(BVTサテライト、BVT3アンダーエイジ等)/開催地の方針に従い開催可

②JBV公認大会/開催地の方針に従い開催可

③全国都道府県連盟の諸事業(大会等)/開催地の方針に従い開催可

④練習会等(個人練習を含む)/開催地の方針に従い開催可

なお段階的な移行期間において、上記開催制限以下の規模であっても、イベントを計画・実施の際は次の項目について十分に検討のうえ対応してください。

※無観客での開催を推奨(代わりに各試合ライブ配信を行い各試合の結果をSNSで配信できないか検討)

※大会参加者は例年通り男女各24チーム(出場選手数は男女合計96人)

※ライブ配信は学連or日本ビーチバレーボール連盟で

※選手の宿泊は個室で対応する事を推奨

① クラスターが発生するおそれがある大会や講習会・研修会については、引き続き、都道府県知事からの自粛要請等に基づいて適切に対応してください。

※大会期間中に集団感染が起きないようなガイドライン作り

② 感染リスクへの対応が整わない場合は中止または延期するなど、慎重に対応してください。

※感染リスクへの対応が整わない場合は中止  
※中止の目安となる項目を考え基準となる数値等を予め決めておく。

③ 当面の間、急激な感染拡大への備えと、三つの密(密閉、密集、密接)を徹底的に回避するための対策など、適切な感染防止対策を講じることが必要です。ソーシャルディスタンスの確保(できるだけ2m以上)、換気や手洗いうがいの徹底とともに、手指などで接触するもの(ボール・器具・ドアノブ・テーブル・椅子等)については定期的な消毒をお願いします。

※基本的にビーチバレーは屋外において少人数で行う競技なので三密は避けられると考えられる

※大会参加者の縮小・開、閉会式の廃止

※主審1名制・記録と得点は簡素化し大会参加者で行う(記録と得点の間は2m以上の感覚を開けビニール手袋着用義務化)記録の各テーブルにアルコール消毒液を設置

※ボールレトリバーの廃止(1プレー毎に選手がボールを拾い得点係にボールを渡し随時除菌作業を行う)

※参加選手関係や大会関係者は待機時に三密を避けるため不要な会話は禁止し個人行動を取り、マスクやビニール手袋の着用を義務付ける

※大会本部では連絡事項等は放送で行わずLINEで伝える(大会参加者や関係者は全員、大会グループLINEに登録し連絡を取り合う)

※試合毎に手洗いうがいを義務化させ本部・選手テント・更衣室・トイレ・手洗い場には手洗い用洗剤やアルコール消毒液を置き感染防止を徹底させる。

(2) 活動再開における基本的な実施判断基準について

① 当面の間、多くの参加者(目安として50人以上)が出場する大会やイベントの開催については、感染リスクへの対応が整わない場合は中止または延期するよう、都道府県知事からの要請等に基づき、慎重に対応してください。

※都道府県知事からの要請等に基づき慎重に対応し感染リスクへの対応が伴わない場合は中止を検討する

## 【ガイドライン】

- ② ビーチバレーボールなど屋外での大会や地域の講習会、研修会などについては、各都道府県知事のイベント開催制限の方針に反しない形であれば、適切な感染防止対策(後述「2 バレーボール大会、講習会、研修会の開催・実施時における留意点」参照)を講じたうえで、それらのリスクの判断を行い、感染拡大のリスクの低い活動については注意をしながら実施することができます。講習会、研修会においては参加者を把握した上で開催してください。

## 【対応策】

※開催地(兵庫県明石市)のイベント開催制限の方針に合わせて適切な防止対策で対応

### 2. ビーチバレーボール大会、講習会、研修会の開催・実施時における留意点

大会や講習会、研修会の開催・実施時の感染防止策について、公益財団法人日本スポーツ協会の各種指針や専門家会議提言等に基づき、参加者が安全・安心に参加できるよう、都道府県知事の方針に反しないことを前提として、大会等を開催・実施することとした主催者が、その運営に当たり留意すべき事項は以下の通りです。大会の主催者は、以下の内容を踏まえつつ、障がい者や高齢者などを含む参加者それぞれの属性を勘案して、感染防止のため自らが実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理することが求められます。また、各事項については、チェックリスト化(※)し、適切な場所(大会の受付場所等)に掲示するとともに、各事項が遵守されているか定期的に巡回・確認することにより、大会の主催者だけでなく、参加者を含む関係者全員が感染防止のために取り組む必要があります。なお、各事項の整理に当たっては、5月4日開催の専門家会議提言の別添において実践例が示されている「新しい生活様式」も参照してください。(※)チェックリスト(主催者及び参加者向け)のサンプルを添付しております(別添1、2)

※チェックリスト作成

#### (1) 大会等の参加募集時の対応

大会等の主催者は、参加募集に際し、感染拡大の防止のために参加者が遵守すべき事項を明確にして、協力を求めてください。参加者の安全を確保するため、これを遵守できない参加者には大会等への参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあり得ることを周知する必要があります。なお大会等の主催者が参加者に求める感染拡大防止のための措置として、以下が挙げられます。

※以下の項目を大会参加者に義務付け覚書を交わす

- ① 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる(大会当日に書面で確認を行う)
- ア. 体調がよくない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- イ. 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ウ. 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ② マスクを持参すること(参加受付時や着替え時等の競技を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること)
- ③ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒の実施
- ④ 他の参加者、主催者スタッフ等との距離を確保すること(できるだけ2m以上/障がい者の誘導や介助を行う場合を除く)
- ⑤ 大会開催中は大きな声での会話、応援等をしないこと
- ⑥ 感染拡大防止のために主催者が決めたその他の措置を遵守し主催者の指示に従うこと
- ⑦ 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

※マスクは運営側でも用意

※選手は1試合毎もしくは1時間に1度の手洗いうがいを実施させる(チェック表作成)

#### (2) 当日の参加受付時の留意事項

大会等の主催者は、大会当日の受付時に参加者が密になることを防止し、安全に大会等を開催・実施するため、以下に配慮して受付事務を行ってください。

- ① 受付窓口には、手指消毒剤を設置すること
- ② 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼びかけること(状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限すること)
- ③ 人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること
- ④ 参加者が距離を置いて並べるように目印等を設置すること

※大会本部・選手テントにはアルコール消毒液とビニール手袋を設置

※当日は非接触体温計を準備し選手・大会関係者に発熱者の有無を確認し体調不良者は入場を制限(選手の体調不良者は試合を棄権)

※受付には透明ビニールカーテンで対応し関係者はマスク・フェイスシールド・ビニール手袋も着用

※各コートのベンチは予め2mの感覚を保って設置

※記録係と得点係の感覚も2m保つ

## 【ガイドライン】

## 【対応策】

- ⑤ 受付を行うスタッフには、マスクを着用させること
- ⑥ インターネットやスマートフォンを活用した受付の普及を一層図ることで、受付場所での書面の記入や現金の授受等をできるだけ減らすようにすること
- ⑦ 大会当日に限らず、前日などにも受付を実施し混雑を極力避けること
- (3) 大会参加者への対応
- 1) 書類による体調の確認: 参加チーム代表者には大会当日、以下の事項を記載した書面の作成・提出を依頼してください。
- ① 全員の氏名、年齢と代表者の住所、連絡先(電話番号)※個人情報の取り扱いに留意
- ② 大会当日の体温(全員分)
- ③ 大会前2週間における以下の事項の有無(全員分)
- ア. 平熱を超える発熱
- イ. 咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状、嗅覚や味覚の異常
- ウ. 体が重く感じる(だるさ、倦怠感)、疲れやすい、息苦しい(呼吸困難)等
- エ. 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- オ. 同居家族や身近な知人の中で感染が疑われる方の有無
- カ. 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触の有無
- 2) マスクの準備等 大会の主催者は、参加者にマスクを準備するよう依頼してください((1)―②)。マスクの着用は参加者等の判断による(※)ものとしますが、参加受付、着替え、表彰式等の直接競技を行っていない間、特に会話する時には、マスクの着用を求めることが考えられます。また大会に参加する個人や団体は、大会の前後のミーティング等においても、三つの密を避けること、会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮することが求められます。
- (4) 大会等の主催者が準備・配慮すべき事項
- 1) 大会会場・競技備品類 バレーボールの大会等は体育館内で行われることがほとんどであり、換気については特に留意が求められます。また、競技で使用する備品には不特定多数の参加者が直接手を触れる物が多く、開催期間の前後を含む継続した対応が必要です。
- ① 屋内で競技を実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う。窓を開けることができる環境でも、競技中は遮光の関係で暗幕を閉じる必要があるが、セット間など定期的に開放して外気を取り入れる等の換気を行うこと。空調設備の活用や、必要に応じて扇風機を併用するなどの工夫を心掛ける。
- ② 試合球はできるだけ複数個用意し、こまめに消毒・清掃を行って交換しながら使用する
- ③ 線審のフラッグ、得点板、モップ等、試合で使用する備品類のこまめな消毒など衛生対応に留意する
- ④ 審判員の笛(私物)についても、唾液の付いた状態での放置を避けるなど、不慮の接触を避けるため留意を求める
- ⑤ 屋外で競技を実施する場合には、特に仮設テントなどの設置物に関して、換気の悪い密閉空間とならないようにする。通気口を設ける等、換気に留意すること。更衣室などでテントを閉鎖して使用する場合においても、一度に使用する人数を制限し、密集・密閉状態を避ける

※基本的に受付業務は行わないが受付スタッフも含めた大会役員や審判はマスク・フェイスシールド着用は必須で選手も試合以外はマスク着用を義務化

※大会参加費は事前振り込み制で、大会当日の連絡事項等のコミュニケーションは大会グループLINEで行う

※左記のチェックリストを作成し配り、選手から提出させ、提出を怠った場合は試合に出場させない

※役員や競技補助員の試合中におけるマスクの着用については、主催者側で柔軟に対応ください。

※受付スタッフも含めた大会役員や審判は、マスク着用は必須で選手も試合以外はマスク着用を義務化

※屋外のため問題無し(テントの横幕は設置しない)

※各コート試合球を3球準備し、プレー毎に得点係が消毒を行い交換する

※練習用ボールの貸し出しは無し(各自持参)

※主審1名制でセルフジャッチのため線審は不在  
※得点版は使用後毎回使用者が消毒作業を行う

(※電子ホイッスル等の活用)

※電子ホイッスルでの試合で問題ないか審判委員会に相談

※電子ホイッスル不可の場合はフェイスシールド着用(フェイスシールド購入)

※選手テントには直近の試合の1試合前のチームまで使用可とし、その他のチームの入室は控えさせ、テント内ではソーシャルディスタンス(2m間隔)を保つことを義務化  
※更衣室は現地の施設をそのまま使用させてもらい一度に入れる人数は男女更衣室各1人(5分)とし、使用後は使用者に消毒・清掃を徹底させる

## 【ガイドライン】

## 【対応策】

- ⑥ 主催者は、感染対策とともに熱中症のリスクにも備えること。特に、マスクを着用していると水分補給を忘れてしまうことにより、体温が上昇することがあるため、こまめに水分を補給すること。役員や競技補助員の試合中におけるマスクの着用については、主催者側で柔軟に対応する。
- 2) 運営スタッフの体調確認  
参加チームのみならず、運営に関わるすべてのスタッフの検温を実施し、(3)-1)-③と同様の確認を行うことが求められます。運営リストにはない関係来場者などを正確に把握し、全員分の体調確認も徹底するよう努めてください。
- 3) 式典等、運営の簡略化  
コイントス時、キャプテンと審判間のあいさつや試合前後の握手に関して、当面は一礼などでこれに代える形としてください。また開・閉会式、表彰式などでは、参加者が密になる状態を避けるため、式典参加者の数を減らす、内容を簡略化するなど、必要性に応じながらも柔軟な対応が求められます。
- 4) トイレ・手洗い場所  
洗面所(トイレ)は感染リスクが比較的高いと考えられるため、大会等の主催者は、以下に配慮して管理することが求められます。また参加者がイベント開催・実施の間に手洗い・うがいをこまめに行えるよう、以下に配慮して手洗い場所を確保することが必要です。
- ① トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、水洗トイレのレバー等)については、こまめに消毒する
- ② トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
- ③ 手洗い場には石鹸(ポンプ型が望ましい)を用意する
- ④ 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする
- ⑤ 可能な範囲で、手を拭くための使い捨てペーパータオルを用意する(参加者にマイタオルの持参を求めてもよい。布タオルや手指を乾燥させる設備は使用しないようにする)
- ⑥ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する
- 5) 更衣室、休憩・待機スペース  
更衣室、休憩・待機スペースも感染リスクが比較的高いと考えられるため、大会等の主催者は、更衣室や、一時的な休息をするための休憩スペース、参加者等が参加前の確認を受ける待機スペース(招集場所)について、以下に配慮して準備することが求められます。
- ① 他の参加者と密にならないよう広さにゆとりを持たせる(障がい者の介助を行う場合を除く)
- ② ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者数を制限する等の措置を講じる
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等)については、こまめに消毒する
- ④ 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する
- 6) 競技中の注意事項  
プレー中も選手、スタッフ同士の接触機会を減らすよう、以下の点に配慮が求められます。参加チームには、競技前に周知のうえ協力を要請してください。
- ① 体育館内でのバレーボール大会については、当面の間、試合用コート1日1面当たり2チームを超えない範囲での参加に限る
- ② セットごとの換気など適切な感染防止対策の実施
- ※大会開催予定は9月中旬としているが、暑さは残っている時期と考えられるため熱中症対策にも十分に注意を払い計画を立てる。  
※コートへの水撒き  
※その他考えられる暑熱対策や救急救命等の準備を行う
- ※試合前に選手・主審・記録・得点者の体温を確認(平熱より0.5度以上高い場合は1. 選手は棄権で負け 2. 主審・補助役員は変更とする)  
※会場は大会関係者のみの入場を推奨(各試合LIVE配信・SNSでの結果配信検討)
- ※試合前の握手やコイントスは行わず、2m以上離れた状態でジャンケンを推奨  
※開・閉会式は行わず来賓挨拶等は大会グループLINEで発信  
※パンフレットの作製も行わずSNSで発信
- ※トイレは使用後に使用者がアルコール除菌シートで触れた箇所を清掃し、手洗いを行う  
※注意点を記載したものを目に入りやすい場所に掲示  
※選手・記録係は試合後に主審が手洗い場まで先導し全員で手洗い・うがいをし、その後アルコール消毒を行う  
※手洗い場やトイレ・更衣室に厚生労働省発信の手洗い方法を掲示  
※各場所にペーパータオルとゴミ袋を設置
- ※関係者全員に手洗い+アルコール除菌を徹底
- ※更衣室(シャワー室)は現地の施設をそのまま使用させてもらい一度に入れる人数は男女更衣室各1人(5分)とし、使用後は使用者に消毒・清掃を徹底させる
- ※関係者全員にソーシャルディスタンスの意識付けを促し、常時2m以上の間隔を取らせる  
※1時間に1度本部からグループLINEで関係者に注意事項を発信し感染防止の意識を高めさせる
- ※3人以上の集団を作らないようなルール作り(3名でも2mの間隔を意識して行動)
- ※会場から宿泊施設に入る場所にアルコール除菌シートを設置し利用毎に利用者が消毒・清掃を行う  
※宿泊施設内のロビーは原則通行のみとするが換気扇を回し窓を開けて換気に注意をする
- ※1コートに入る人数は半面に2名ずつの4名、主審1名、記録1名、得点1名の合計7名とし記録と得点者は主審の反対側で2mのソーシャルディスタンスを保ち行う
- ※屋外のため換気の必要はないが感染防止対策は考える

### 【ガイドライン】

### 【対応策】

- |  |   |
|--|---|
| <p>③ 試合前などの円陣や、ベンチでの集合時においてもできるだけ密集・接触を避ける</p> <p>④ 競技中のハイタッチは腕のタッチにとどめる</p> <p>⑤ ネット際などで、相手に向いた状態での発声は控える</p> <p>⑥ タオル、水ボトル、アイシングバッグなどの共用禁止</p> <p>⑦ 競技に携わるスタッフ(モッパ、サンドレペラー、レトリバーなど)の注意事項も明確にしておく。</p> <p>7) 観客の管理</p> <p>大会やイベントに観客の入場を認める場合には、マスクの着用をできるだけ課したうえ、観客出入口付近通路にアルコール等の手指消毒剤を設置するほか、観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らして間隔を空けるなどの対応が求められます。特に試合前後には観客の一斉移動が起こりやすく、通路等に人が押し寄せて密になる可能性が高いため、主催者によるコントロールが重要です。体育館の壁際通路など、観戦場所が狭いスペースに限られる場合、当面は観客の入場を不可としてください。感染拡大の状況によっては、入場時の検温などを導入するのが望ましいでしょう。応援については、大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にはマスクを着用することが求められますが、トラブル回避のためにもあらかじめ各チームに共通の目安を伝えておくことが有効です。その他、会場内での飲食に関する規定や外履きを持ち込むための袋を持参する等の注意事項を周知することも必要です。</p> <p>8) ゴミの廃棄</p> <p>鼻水、唾液などが付いたごみや使用済のテーピングなどはビニール袋に入れ密閉して縛り、回収する人はマスクや手袋を着用してください。作業後は必ず石鹸と流水で手を洗い、手指を消毒することが必要です。</p> <p>(5) 発熱者・感染者が発生した場合の留意事項</p> <p>大会の主催者は、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報への取扱いに十分注意しながら、大会当日に参加者より提出を求めた書面(上記(3)1))について、保存期間(少なくとも1か月以上)を定めて保存しておくことが必要です。また、大会終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、開催自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておくことが必要です。</p> | <p>※選手はセット間にベンチで会話をする際に2mの間隔をあけて、お互いに正面を向かず会話をしたり、タオルで口をふさいで話をするように心がけさせる(審判も確認)</p> <p>※競技中のハイタッチや接触行為は原則として禁止とする(2m以上離れてエアタッチ等)</p> <p>※ペアに対して競技中に掛け声や指示を出すことは致し方ないが大きな声を出すなど飛沫するような行為は極力控えるように予め勧告する</p> <p>※基本的に大会中に使用するものに関しては全て個人で準備し個人のみを使用を予め勧告</p> <p>※以下のものは個人的に準備し他人とは共有を避ける<br/>タオル・飲料に関わる容器(紙コップ・ペットボトル・缶・瓶類など)アイシングバッグ・ウェア・サングラス・キャップ・サンバイザー・サンドソックス・アームバンド・サポーター等、競技に関わるグッズ</p> <p>※スリッパが準備できる会場でも、当面は貸与(使い回し)を控えて安全確保を優先してください</p> <p>※大会は無観客を推奨するため問題は無いが、同じ大学や同じ学連のチームが試合を行っている場合など声援を行っている場面が見られるため、試合が無い選手は会場には立ち入らぬように注意する</p> <p>※回収後のゴミ袋の廃棄方法をどうするか現地の関係者に相談</p> <p>※作業後の手洗いうがい、消毒を徹底する</p> <p>※大会に参加する選手、スタッフ、役員等、大会に関わる全ての方々に、大会2週間前からの行動履歴と検温等の健康チェックを義務付け、怠った場合は失格とし出場させないような厳格なルールを作り徹底させる。</p> |
|--|---|